



## 不合格体験記

ある予備校が「不合格体験記」を出している。以前、進路通信にも掲載したことがあるのだが、3年生の今になって読むとグッとくる部分もあるに違いない。人間は何事も「失敗から学ぶ」ものだ。しかし、こと受験に関しては、失敗しないで済ませるならば済ませたい。そこで、この体験記のタイトル部分だけをもう一度並べてみよう。それだけでも今の自分の姿勢や勉強法を振り返るヒントになるのではないだろうか。

\*

- メール、部活、文化祭…言い訳のネタは尽きない
- 大学全入時代、普通にやれば合格…
- 生活リズムの大切さと意志の弱さ
- 志望変更で科目減、実は1教科あたりの負担増
- 携帯の悪魔
- 父母や教師の言うことをいつも「フザケンナ」と思っていた
- 「どうしても行きたい！」この気持ちを忘れていた
- 塾を信じ、教師の言うことを無視した
- 「数学がダメでも理科でカバー」、この作戦で落ちました
- 「行きたいところ」から「行けるところ」へ、これが失敗の主因
- 授業無視で合格するはずがなかった
- 「した」「やった」「覚えた」「合格した」～つもりの四段活用。
- コツコツ継続すること、これが能力・素質だと気づいた
- 敗因は甘えと感情の優先
- 授業を軽視、自己流（参考書・内職）に走

った

- 親への感謝を忘れていた
- 不合格御三家「現実逃避」「責任転嫁」「言い訳」
- 授業を軽視、残ったのは何も書かれていないノートだけ
- 学校でピコピコ、終わってピコピコ、いつでもピコピコ、メール中毒が敗因
- 「志望下げたのに…」これが敗因
- 口癖の「きつい、きつい」というほど勉強したことがなかった
- 「明日やればいい…」何でも先延ばし
- 365日、唯一続けた日課は「ケータイ、テレビ、睡眠」だけ
- 大学受験をナメた勉強態度が敗因
- 「これは分かっているから」は×。東大は基礎の反復が大切。

\*

それぞれのタイトルから、いったいどんな内容だろうかと想像してみしてほしい。想像がつくとすれば、それは「身に覚えがある」ということでもあろう。

「人の振り見て我が振り直せ」と言うが、自分の欠点を認識して、その改善に取り組むことは容易なことではない。しかし、その容易でないことに真剣に向き合い、それこそ「コツコツと継続」することが出来た人の上に栄冠は輝くのである。よく私がこの通信で「素直に」という言葉を使うと思うが、人のアドバイスに対して、そして、何より自分自身に対して「素直」であることが、現状を正しく認識し、その改善への取り組みを生み出す源泉なのである。